



長野県難聴児支援センター

ニュースレター

平成29年
第13号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

「シュトーレン」なるものを初めて食べました。12月の風物詩に加わりそうな、これからの子どもが聞き馴染んでいきそうな新しい文化ですね。生活様式とともに「広がることば」を体感しました。



「後期 第1回ファミリーセミナー」開催

11月18日(土)ファミリーセミナーを開催しました。難聴が発見されたばかりの0歳のお子さんをかかえた保護者の方々が、遠方からもご参加いただきました。

第1回は、長野県難聴児支援センター長の宇佐美教授より「耳のしくみと音の伝わり方」「遺伝子診断からわかること」「治療の実際」等、事例や映像を交えてわかりやすくお話しいただきました。お母さんお父さんが熱心に耳を傾け、メモを取り、教授に質問したりしながら、

「我が子のきこえ」に向き合っていました。

参加いただいた方からは、

- ・ 診察室で説明いただいた事を、あらためてわかりやすくお話しただけで良かった。
- ・ 医学的なことを知ることで、気持ちの整理や将来への見通しをもつことができた。
- ・ 同じような境遇の方々にもお会いし、「一人じゃない」ことがこれからも大きな支えになる。
- ・ 4回シリーズで、いろいろなお話がきけるので、続けて参加したい。

という声が寄せられました。

この会の名称を「ファミリーセミナー」としているのは、お父さんやおじいさんおばあさんなど、赤ちゃんを支える多くの皆さんにご参加いただき、「知ること」から一歩を踏み出してほしい。家族みんなで育てる環境を考えたい。そして、近所では一人かもしれないけど多くの「仲間」を感じてほしいと願っているからです。

赤ちゃんを支える皆さまのご参加をお待ちしております。



今後の予定

午後1時～

第2回 12月9日(土)

第3回 1月27日(土)

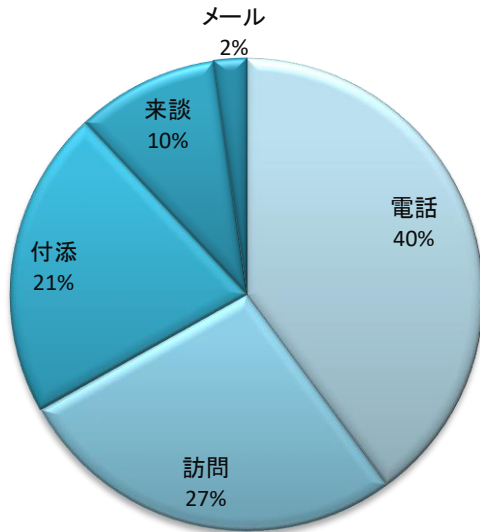
第4回 2月24日(土)

※講師、内容等詳しくはHPにて
ご確認ください



「相談支援」とは？ ～4月からの半年間を振り返って～

難聴児支援センターには、様々な形でご相談をいただいております。相談を通して、必要な機関との橋渡しをしたり、「次への一歩」を一緒に考えたりしています。この半年間の実績をまとめました。



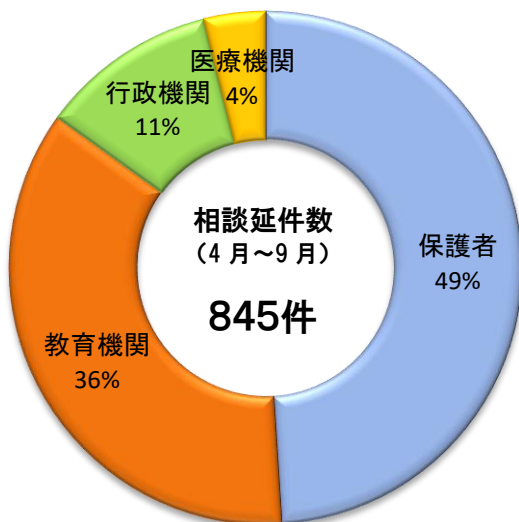
相談方法（4月～9月）

相談の方法は、「電話」による相談が多くを占めています。電話でお話をさせていただきながら、各機関との連携や支援について考えていきます。

「訪問」は、お子さんが生活する場（幼稚園、学校）での様子を見せていただきながら、その場にいる関係者とともに必要な配慮や支援について考えています。「付添」は、産科や耳鼻科での外来に同伴し、医療の情報を共有したり、不安なことを一緒に考えたりしています。

その他、当センターの「親子相談室」を利用した「来室相談」も活用いただいております。

時間や実態に合わせて、お気軽にご相談ください。



相談者の内訳

相談をお寄せいただく方々は多岐にわたります。

【保護者】

- ・難聴（疑い）のお子さんを支えるご両親、祖父母

【教育機関】

- ・地域の保育園幼稚園、小学校、中学校の先生
- ・早期支援教室や療育施設の先生
- ・ろう学校、難聴学級、ことばの教室の先生

【行政機関】

- ・市町村の保健師さん
- ・市町村の福祉課、子ども課等の担当者
- ・市町村の教育委員会

【医療機関】

- ・産科医の医師や新スク検査担当者
- ・耳鼻咽喉科の医師や担当者

お子さんの実態や成長に合わせ、多くの方々と相談しながらその子の成長をサポートしています。



「相談事例」 ～センターに寄せられたご相談より～

センターでは、療育支援員が相談の窓口となり、各関係機関との連携をお手伝いしています。

保護者



- 新スクで「リファー」と言われた。何人くらいの赤ちゃんが再検査になっているのか？
- 確定診断までの間、どんなことに気を付ければよいか？
- 補聴器を初めて手にした。着けるときの注意は何か？
- 近隣できこえに関する支援をしてくれる場はないか？
- 保育園や幼稚園は、どのような視点から選べばいいか
- 集団生活での「きこえの様子」を見てほしい
- 学校の先生と「FMシステム」の活用を考えてほしい 等

教育機関



- 補聴器や人工内耳の扱いと配慮点を教えてほしい
- 保育場面で「きこえやすさ」に注意することは何か？
- 教室で「座席」はどこにしたらいいか
- 体育や音楽の授業で配慮することはどんなことか？
- クラスの子どもたちに、「難聴理解授業」をしてほしい
- 最新の医療について学べる機会を設けてほしい
- 「自立活動」に関する内容を一緒に考えてほしい
- 子どもの実態や課題についてケース会議をもちたい 等

行政機関



- 一カ月健康診査の際、新スクの結果について不安に感じている保護者がいた。どのようにつなげばいいか
- 保健師への「新スク・早期発見」の研修をお願いしたい
- 幼稚園での様子から、加配の付き方を検討してほしい
- 就学について関係者で必要な情報を共有したい
- FMシステム活用について県内の様子を教えてほしい
- 県内にどのくらいの難聴児がいるか 等

医療機関



- リファーになった場合の「フォローアップ」について
- 「確認検査」の回数と報告の仕方について
- ハイリスク児への「初回 ABR」の実施について
- 里帰り出産者へのフォローアップや対応について
- 「要再検者」に配布する小冊子のことについて
- フォローアップを望まない保護者への対応について
- 助産所との連携について 等



後期 第2回 ファミリーセミナーのご案内

赤ちゃんのきこえを考える学習会

- 1 日時 平成29年 12月9日(土) 13:00~14:30
- 2 場所 長野県難聴児支援センター (松本旭町庁舎2階『多目的室』)
- 3 講師 **宮川 麻衣子 先生** (信州大学附属病院耳鼻咽喉科 医学博士)
- 4 内容
 - ・「オーディオグラム」や「治療の実際」について
 - ・「補聴器」や「人工内耳」について
 - ・赤ちゃんのきこえとことばについて 等
- 5 参加費 **無料** (事前に電話、FAX、メール等でお申し込みください)



みみよい情報

◇まんがでよくわかるシリーズ「耳と補聴器」

ある小学校を訪問した際、「耳の中に『蝸牛』があって、そこで音の振動を電気信号に変えているんだよね！」と説明してくれる子がいました。「よく知ってるねえ」と尋ねると、「図書館の本で読んだよ」と、この本を教えてくれました。

昨年冬に、全国の小学校に配布された学研シリーズの本ですが、子どもたちは「知ること」から、聞こえや補聴器について関心をもち、より身近に感じることができるんだなあ実感しました。



長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

支援療育員；丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

